

# 中部病院



これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	中部病院	所属・部門	
項 目	1 新型コロナ対策本部の設置		

(1) 対応、取組、実績

- ・令和2年3月、院内に新型コロナ対策本部を設置し、情報集約を行っている。
- ・毎週2回（逼迫時は毎日）、コロナ会議を開催し各セクションと情報共有を行った。令和5年3月からは毎週1回コロナ会議を開催している。
- ・院内コロナ対策本部に、医師、看護師、事務職員を配置し、県コロナ対策本部や中部保健所等との調整、患者へPCR検査結果の報告、HER-SYS・G-MIS・O-CASの入力作業等を行った。通常業務にコロナ対応業務も加わったため、膨大な業務量となった。
- HER-SYS 新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム 登録義務付けに伴い医師クラーク、事務職員等で入力
- G-MIS 厚労省と医療機関の情報招集システム 病床状況、医療機器使用数、医療資材確保、薬剤の確保申請等 感染症内科医師、薬剤師、事務職員等で入力
- O-CAS 県内医療機関情報(G-MISと一部重複)を県コロナ対策本部が集約し、病院間調整に活用、日々更新 感染症内科医師、看護師、事務職員等で入力
- ・感染症内科医師や感染管理認定看護師を中心に、手指衛生や個人防護具の適切な着脱等の標準予防策、COVID-19対策における研修会等を実施している。

(2) 評価

- ・院内コロナ対策本部を設置することで、各セクションとの情報共有や県コロナ本部からの受入調整、保健所との調整等を迅速に行うことができた。
- ・コロナ会議では、各セクション長が集まり、コロナ罹患者等の受入れ状況やベットコントロール、感染対策等について情報を共有し迅速に対応した。
- ・コロナ対応に、全職種の職員が一丸となって、それぞれの強みから対応できることを協力し対応した。

(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・当院の新興感染症対策として、平時、有事それぞれの対応について、BCPを策定し有事の際に適切な対応ができる体制を整えておく必要がある。

- ・職員が標準的な感染対策を常日頃より適切に実践できるように継続的に教育を行い意識づけしていく必要がある。

#### 添付資料

- ・コロナ本部、組織図、コロナ対策研修会、外来待合室隔離スペース、患者対応訓練等の写真
- ・医療従事者の感染対策
- ・患者対応方法





COVID-19対策において医療従事者が実践すべきこと

COVID-19の検査結果によらず全ての患者に実施をいまいしょう！  
～飛沫をあげない、もらわないように～

- 患者に接する際は、  
① **接触「前」と接触「後」の手指衛生**をしましょう！  
② **マスク着用**の協力をお願いしましょう！

**短時間の接触**でもマスク着用が大事…

- ・会話するとき、部屋から出るとき
- ・バイタル、処置、オムツ交換など

- 飛沫が発生する手技をおこなう際は、

- ・吸引、吸痰
- ・食事介助
- ・入浴介助

**職員は、必ず  
N95マスク  
ゴーグル**

**エプロン  
手袋**

- 発熱、咽頭痛、鼻汁、咳嗽など「**有症状**」あるときは部署長へ相談！



接する前には、患者に  
**必ずマスク着用**してもらおう



# 防護具 (PPE) の脱衣方法

## 手指衛生

### ① 長袖ガウン、手袋



## 手指衛生

② 帽子 後ろ側をつまんで外す

## 手指衛生

ここまで脱いたらRedからGreenに出る

③ ゴーグル フレームをつまんで回収箱に投棄

## 手指衛生



④ N95マスク

ゴムひもをつまんで外す。タッパーに保管



## 手指衛生

2021/5/10 沖縄県立中部病院



# COVID-19院内発生時における接触患者の曝露リスク分類と対応方法

2023年7月11日感染対策チーム

Red対応:濃厚接触(高リスク)患者		Yellow対応:接触(中リスク)患者	
予防策	空気・飛沫・接触感染対策	飛沫・接触感染対策(インフル)に準ずる	
期間	最終曝露日(0日)から7日間	最終曝露日(0日)から5日間	
PCR採取	曝露判明時、曝露後3日目、曝露後7日目	曝露判明時、曝露5日目	
PPE	N95、ゴーグル、長袖ガウン、手袋	サージカルマスク、ゴーグル、エプロン、手袋 *飛沫が発生する処置・ケアの際にはN95マスク装着	
検査・手術	原則回避。術後COVID発症リスクと回避することのリスクを勘案し主治医が判断。	体調確認のうえ上記対策実施下で可。関連部署へ連絡	
リハビリ	病室内で実施	病室内で実施(南3のみ患者症状確認し病棟内)	
透析	個室または出張	一般患者と区別(時間or場所)して実施	
退院・転院	原則不可	家族、施設に説明の上、感染対策が実施できることを了承 得られれば可能	
シャワー	可能な限り清拭対応	体調確認し、順番最後にして可	
食事	下膳車あり:通常食器、下膳車なし:デイスポ食器	通常食器、通常対応	
トイレ	マスク、手指衛生して使用可能。 新棟の病室隣のトイレは病室内の空気が排気されるため、対策を講じている部屋のトイレは接触者専用使用とする。	使用後は環境クロス使用し消毒	
廃棄物 リネン	感染性として処理(Redから出す際に2重袋にする)	感染性として処理(通常の感染性廃棄物、感染性リネンと同じ扱い)	
私物リネン	2重にして72時間放置後に通常対応	通常処理で可能	
便尿器、陰洗 ボトル	Redで外側拭いてGreenに渡す。またはGreenがビニール袋で受け取る。ベッドバンウォッシュャーで洗浄		
バイタル物品	個別、無理なら部屋毎		
清掃	看護スタッフでクイックルワイパーで清掃	通常清掃	
物品取り出し	Redで清拭消毒後Greenに持ち出し、Greenで再消毒	清拭消毒後、通常対応	
部屋 対策表示方法	<p><b>[Red対応]</b></p>  <p>個室でドアを閉じて対応。 大部屋でコホート(集団)隔離の場合も同様。 病室前に表示</p>	<p><b>[Yellow対応]</b></p>  <p>可能なら個室。ドアを閉じて対応。 大部屋でコホート(集団)隔離時にもドアを閉じる。基本病室前に表示する。 大部屋でコホート(集団)隔離できない時は、カーテン隔離でバイタル物品収容ここに表示する。</p>	

## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

<b>組 織</b>	中部病院	<b>所属・部門</b>
<b>項 目</b>	2 コロナ病床の確保	

### (1) 対応、取組、実績

- ・ 当院は重点医療機関に指定され、県からの依頼に応じ、即応病床の確保を行った。
- ・ 感染状況や当院の受入体制に応じて、確保病床数を9回変更しながら対応を行った。
- ・ コロナ病床の最大確保数：70床（内訳：6東28床、6西28床、ICU6床、周産期5床、NICU3床）
- ・ 医療体制が逼迫し南3病棟閉鎖した時期もあった。（R2.8/13～R2.9.23）

重点医療機関																								
	フェーズ0 県内未発生			フェーズ1 入院1～10			フェーズ2 入院11～23			フェーズ3A 入院24～60			フェーズ3B 入院61～150			フェーズ4 入院151～200			フェーズ5 入院201～423					
	確保数	重症	中等	軽症	確保数	重症	中等	軽症	確保数	重症	中等	軽症	確保数	重症	中等	軽症	確保数	重症	中等	軽症	確保数	重症	中等	軽症
令和2年4月1日～	5	2	1	2	8	2	2	4	12	2	2	8	20	2	2	16	24	2	2	20	24	6	3	41
令和3年6月1日～	5	2	2	1	8	2	4	2	14	2	8	4	20	2	12	6	30	2	20	8	50	4	28	18
令和3年10月29日～	3	0	3	0	5	0	5	0	5	0	5	0	15	10	5	0	24	18	6	0	33	27	6	0
令和4年3月4日～	3	0	3	0	13	8	5	0	15	10	5	0	19	14	5	0	24	18	6	0	33	23	6	4
令和4年4月26日～	27	2	25	0	27	2	25	0	27	2	25	0	27	2	25	0	31	2	29	0	47	2	45	0
令和4年5月12日～	27	2	25	0	27	2	25	0	27	2	25	0	27	2	25	0	31	2	29	0	47	2	45	0
令和4年10月17日～	3	0	3	0	3	0	3	0	8	0	8	0	14	2	12	0	18	2	16	0	47	2	45	0
令和5年5月8日～	4	1	3		4	1	3		4	1	3		8	1	7		22	2	20		33	4	29	
令和5年10月1日～	段階Ⅰ 入院 389～582			段階Ⅱ 入院 583～932			段階Ⅲ 入院 933～																	
	特別 感染症 患者	重症	中等	軽症	特別 感染症 患者	重症	中等	軽症	特別 感染症 患者	重症	中等	軽症	特別 感染症 患者	重症	中等	軽症	特別 感染症 患者	重症	中等	軽症	特別 感染症 患者	重症	中等	軽症
	10	2	12		15	3	18		20	3	23													

### (2) 評価

- ・ 重点医療機関として、病床を整備し、コロナ患者を積極的に受入れ、中部圏域の医療を守ることが概ねできた。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・コロナ感染症患者、濃厚接触者の受入状況に応じて、感染対策・ゾーニングを行い、感染症病棟だけでなく、他の病棟もコロナ対応のノウハウが蓄積され、今後の参考になると考えられる。

### 添付資料

コロナ病棟の写真



これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	中部病院	所属・部門	
項 目	3 職員の院外施設等への派遣		

(1) 対応、取組、実績

- ・ 県の各種新型コロナウイルス関連の会議へ感染症内科医師等が参加した。
- ・ 県コロナ対策本部へ業務応援のため救命救急センター医師等を派遣した。
- ・ クラスター発生施設へスタッフ及び DMAT 隊員が訪問し診療や感染対策指導を実施した。
- ・ 中部病院と診療連携している介護施設等においてもコロナ陽性者が発生する事態となったことを受け、感染拡大防止のため地域診療科医師等を中心に往診を開始した。
- ・ 中部地区の福祉施設、教育施設、団体への感染対策講座等を実施した。
- ・ 県コロナ対策本部からの依頼により、クラスター発生施設における運営を支援するため、DMAT（災害医療派遣チーム）を派遣した。
- ・ 県が沖縄市に「入院待機ステーション」を開設したが、開設にあたって設備面のアドバイスが必要となったため、当院施設管理技士を派遣した。
- ・ 「入院待機ステーション」における事務調整員として、数日間に渡り事務職員を派遣した。
- ・ 地域へ出向き、ワクチン接種を実施した。（消防、中部地区医師会、介護施設等）

表：県立病院職員の院外施設等への派遣状況（派遣人数） (R2. 4. 1～R5. 11. 15)

病院名	主な派遣先					合計
	クラスター発生施設等	入院待機ステーション	宿泊療養施設	ワクチン接種関連	その他	
中部	844	161	0	208	37	1,250

※その他の主な派遣先は、県コロナ対策本部等である。

(2) 評価

- ・ 職員を介護施設やクラスター発生施設等に派遣し、診療や感染対策指導、ワクチン接種等を実施し、地域の感染拡大を防ぐことができた。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・ 院外施設等への職員派遣について、事務方が実績を把握するのに苦慮した。院外施設等への派遣状況について、新たな実績把握の構築が必要である。

### 添付資料

- ・ ワクチン接種応援の写真
- ・ 介護施設応援の写真

## ⑤診察（医師が診察、接種の可否を判断）



# ⑦接種済証発行







## これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	中部病院	所 属 ・ 部 門	
項 目	4 職員のサポート		

### (1) 対応、取組、実績

- ・ 令和2年3月以降、当院に勤務するすべての職員（委託、売店等の従業員含む）に対して数回にわたりワクチン接種を実施した。
- ・ 感染管理認定看護師専従者を2名配置し、体調不良職員の報告システム構築、ワクチン接種の推進、感染対策の教育、標準予防策の指導を行っている。
- ・ 当院は感染管理認定看護師が4名在籍しているが、更に2名の職員に感染管理認定看護師の資格取得のサポートを行っている。
- ・ サポートチーム（看護師2名配置）を配置し、体調不良職員の症状等の聞き取り、PCR採取や就業停止期間等の説明を行っている。
- ・ 令和3年8月以降、同居する家族が新型コロナに感染し、職員が濃厚接触者となり家庭内で分離ができない状況時に、分離できるようホテルを確保し、宿泊費用を病院が負担した。
- ・ 院内でメンタルサポートチームを設置し、コロナ患者を対応する職員の精神的ケアの対応を行った。

#### 職員向け宿泊利用状況（中部病院負担）

	利用人数	宿泊日数（累計）	利用金額（累計）
令和3年度	23人	206泊	1,304,500円
令和4年度	93人	479泊	3,060,300円
令和5年度	35人	229泊	1,490,000円

### (2) 評価

- ・ 職員に対しワクチン接種を推奨し、多職種一丸となって職員向けのワクチン接種を実施することができた。
- ・ 職員の徹底した健康管理（症状が出たら速やかに就業停止し、当院のルールに基づいた対応で就業再開）を行うことで、院内感染を最小限に抑えることができた。
- ・ 保健医療部が実施した「医療従事者向け宿泊施設確保事業」を利用しつつ、当該事業では対象とならない職員が利用できる宿泊施設を確保し宿泊費用を病院が負担することで、業務停止の職員数を抑えることができた。
- ・ 院内の医師や看護師、心理士等でメンタルサポートチームを立ち上げ、コロナ患者を対応する職員の訴えや複雑な心情を聞き取り、不安の軽減に努めた。

### (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・業務多忙で職員が少ない中、自身に症状があった場合でも心境的に無理してしまう傾向がある。有症状下で従事してしまうと患者にも影響を与えてしまう。職員がリスクを自覚し、管理者や周りの職員も休みやすい環境を整備する必要がある。
- ・コロナ罹患者、インフルエンザ罹患者、他体調不良者だけでなく、妊娠・病休・研修等の長期休業者を見越した人員確保が重要である。

### 添付資料

- ・ワクチン接種、メンタルサポートの写真
- ・宿泊施設利用手続き資料（職員周知用）
- ・コロナ疑い職員の対応フロー



## COVID-19・メンタルサポートチーム

20200420

発足しました！

**感染症流行期にこころの健康を保つために**

～新型コロナウイルス感染症に対応する職員の方々へ～

悩みの堂々巡り  
戸惑い

疲れ  
パニック  
心配  
疲労感

救護班や病院で対応する職員の方々は、左のような一般的なストレス反応だけではなく、ご自身の仕事内容に関連して、無力感、不全感、フラストレーションなど、特有のストレスを感じるかもしれません：

- 効果的な治療法が確立されていない新しい病気に立ち向かう
- たまっていく仕事
- 「もっとこうすれば良かったのでは」と考えてしまう
- 感染するのではないかと恐怖や不安
- 患者さんや家族等からのプレッシャーや期待
- 職場環境やサポートが十分ではないこと
- 研修中継にさらされたり、痛み、苦しみを目の当たりにした経験

Translated by 日本赤十字社  
Content and design developed by 香港紅十字會 HONG KONG RED CROSS

© 香港紅十字會, 2020年2月版

メンバー：長野宏昭（呼吸器内科医師）☆シリーダー  
西平寛政（精神科医師）  
柳生佳代子（公認心理士）  
富間元秀（職員健康相談室 事務）  
染谷早苗（職員健康相談室 産業看護職）

ご相談・お問い合わせは：長野 PHS：2632

独りで悩まないでください。  
仲間がいます。  
一緒に考えましょう。

「ONE TEAM！」



## 新型コロナウイルス対応にかかる宿泊費用について

中部病院では、同居する家族が新型コロナウイルスに感染し、職員が濃厚接触者となり帰宅することで、出勤停止期間が長くなることを防ぐため、宿泊先の費用を病院で負担いたします。

- 1 宿泊先 春日観光ホテル (うるま市字赤道 179 番地 1) 098-973-1121  
エンズマリーナイン・ライカム (北中城村字ライカム 547 番地) 098-989-7981  
COZY STAY IN 那覇 (那覇市松島 1 丁目 4 番 8 号) 098-988-1952  
Y's inn 那覇小禄 (那覇市金城 5 丁目 9 番 1 号) 098-859-7029
- 2 対象者 同居家族が新型コロナウイルスに感染し帰宅困難となった職員  
(職員と一緒に陽性でないご家族がホテルへ宿泊する場合は自己負担です)

### 3 利用手続

- ① 総務課へセクション長を経由し申込 (利用申込書別紙、事後申請可能)  
※至急の場合 (17 時～8 時 30 分、土日祝含む) は直接ホテルへ申込可能ですが、翌日中に必ず利用申込書を提出してください。
- ② 利用申込書をもとに総務課からホテルへ空き状況の確認と予約を入れ、本人へ連絡。
- ③ 宿泊日当日→チェックイン  
※チェックイン・チェックアウトの時間は利用ホテルによって異なります。また、時間調整を行っていただけますので、事前に宿泊先に確認と連絡をしてください。

※ 宿泊代については、ホテルから当院へ請求してもらいますので支払いは行わないでください。但し、当院が負担するのは職員の宿泊代 (素泊まり) のみとなります。駐車場代は各自でご負担いただきます。

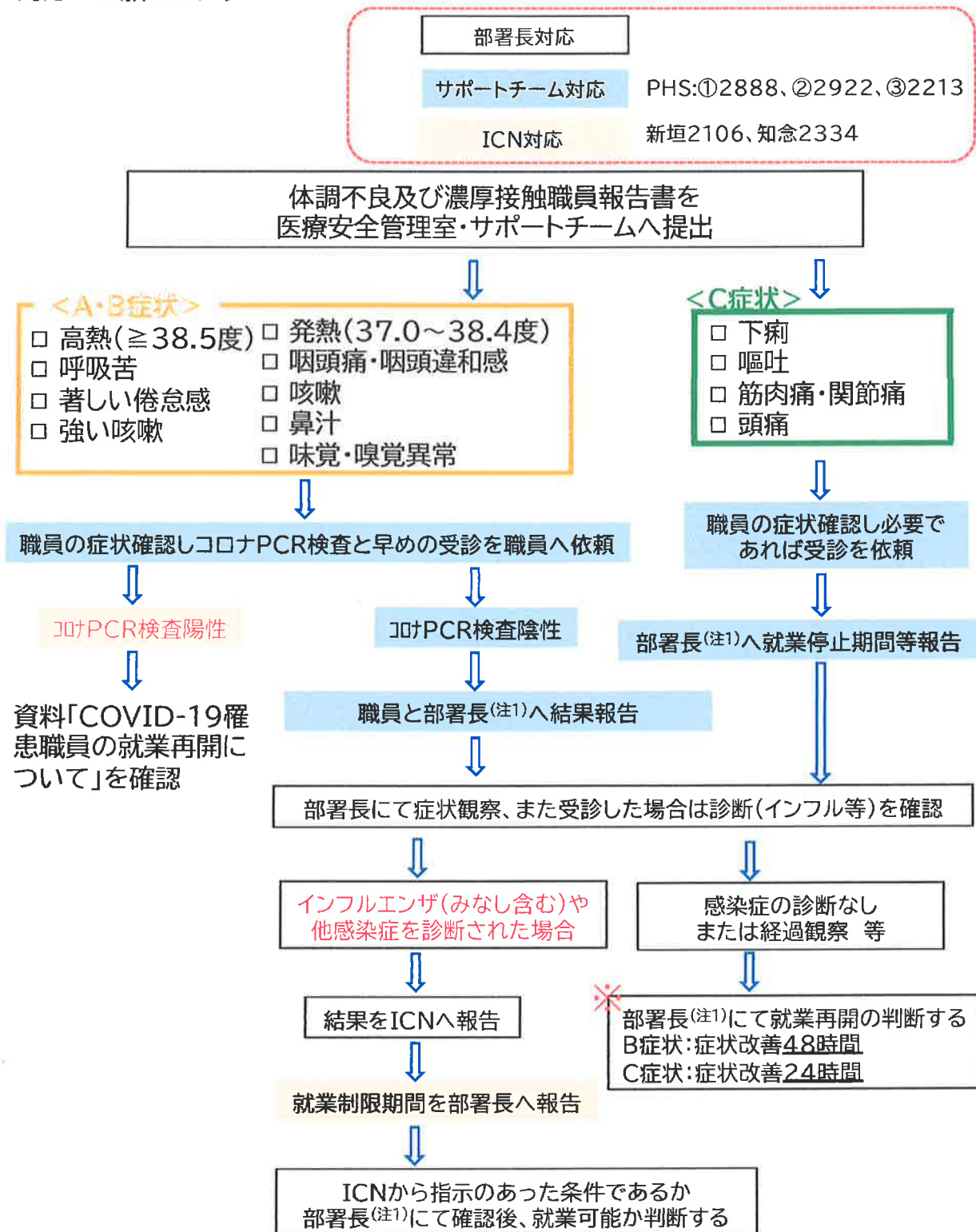
※ 希望のホテルに宿泊できない可能性もありますので、ご了承ください。

※ キャンセル料が発生するためチェックアウト日に変更になる場合は必ず前日 11:30 までに総務課まで連絡下さい。

令和 4 年 5 月 24 日  
病院長 玉城 和光  
担当：総務課 福迫  
(内線：3214)

# COVID-19疑い症状のある職員の対応フロー

COVID-19疑われる症状のある職員発生時の対応となります。下記の流れに沿って対応をお願いします



## ※ 症状改善の定義

- 咳、呼吸苦、下痢、嘔吐:消失
- 鼻汁:消失、鼻炎持ちは普段と同じ程度
- 頭痛:消失、偏頭痛持ちの方は普段の程度
- 発熱:36.9度以下(もともと高体温の方は平熱)
- 咽頭痛・咽頭違和感、筋肉痛・関節痛:軽快

(注1)研修医、医師、美装、綿久、ドトール、売店、守衛、  
電話交換、中部薬剤師会、トーヨーペンディング、ひとあしはサポートチームにて対応

これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	中部病院	所属・部門	
項 目	5 ドライブスルー検査場の整備、入館者の検温・健康チェック		

(1) 対応、取組、実績

- ・令和2年3月以降、染症拡大防止のため、正面玄関における入館者全員の検温、健康チェックを実施している。(対応職員：看護師、コメディカル、事務職員)
- ・令和2年3月以降、来館者からの新型コロナウイルス感染症持ち込み防止のため面会禁止を実施している。
- ・面会禁止に伴い、入院患者家族からの荷物預かりと洗濯物引き渡し業務を実施した。
- ・令和2年8月以降、保健所からのPCR検査依頼がありドライブスルー検査場を整備し運用を開始した。
- ・流行時に救命救急センターに発熱患者が多数来院し救命救急センターの運営が難しい状況が発生したため、軽症のコロナ疑い患者に対する「発熱診療外来」を開設した。
- ・令和3年6月以降、入院患者のスクリーニング（コロナ罹患者や症状のある方との接触歴やワクチン接種・渡航歴等の問診、PCR検査）を実施した。
- ・令和3年8月以降、発熱患者が医療機関で療養を希望する場合は県コロナ対策本部に連絡する必要があるが、それを知らないため、夜間帯に当院への受診希望電話が頻繁に発生し、救急診療業務に支障が生じた。そのため、管理当直医師が電話相談という形で対応に当たった。
- ・令和2年8月以降、来館者からの新型コロナウイルス感染症持ち込み防止のため、物品搬入口や夜間救急出入口に新たに警備員を配置し、全来館者への検温と不要不急の来院はしないよう指導を実施した。
- ・軽症コロナ患者の搬送でホテル療養まで当院救急車が用いられることもあったため土曜日・日曜日・祝日にも搬送業務に従事する運転手を配置した。

(2) 評価

- ・入館者全員の検温、健康チェックのための人員配置、職員のワクチン接種、診療制限による救急外来のトリアージ業務等、全セクションで役割分担を決めて、協力体制を構築することができた。
- ・入院時に症状の有無やコロナ罹患者との接触歴等を確認し、コロナが疑われる患者に対して診断を受ける前から対策を行い、患者や職員が暴露しないように対策を行うことができた。

### (3) 課題 (次の波や新興感染症に備えて)

- ・入院時、PCR検査では陰性であっても、入院数日経過した後にコロナ罹患が判明する場合がある。後にコロナ罹患者との接触や有症状者との接触が判明するケースがあった。PCR検査が陰性であっても接触歴で対策を行うことができ、周囲の曝露を最小限にすることが可能となる。検査には限界があるため、検査結果にとらわれず問診の徹底が重要である。

### 添付資料

- ・ドライブスルー、検温等の写真





これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	中部病院	所属・部門	
項 目	6 クラスタ対応		

(1) 対応、取組、実績

- ・コロナ流行状況と合わせてクラスタの発生があり、コロナ会議で、感染症内科医師や感染管理認定看護師より発生概要、感染リンク、発生状況、発生への対応（調査、検査、感染対策など）について報告があり、各セクションで情報共有し、罹患者・濃厚接触者対応を行った。
- ・アルコール擦式消毒剤が使いやすいよう色々なカ所に配置、また個人持ちする等を行っている。環境清拭用のクロスやゴーグルも使用しやすいように準備されている。ゾーニングが解りやすくなるように衝立を使用し対応している。
- ・コロナ感染拡大に伴い、職員の罹患者等も増え、診療体制がひっ迫したため、入院・外来診療制限、手術制限、一次救急患者の診療制限を適宜実施した。
- ・コロナが猛威を振るう中、電話診療、FAX 処方を実施した。
- ・診療制限等については、周知用ポスターを作成したり、ホームページや関係機関へ周知を行った。
- ・一般外来診療停止と一次救急患者の診療制限を実施した際は、救命救急センターの職員だけでは対応が難しいため、看護師やコメディカル、事務職員を配置し病院入口前で来院者のトリアージを実施した。

(2) 評価

- ・院内クラスタが発生した場合には、ICT メンバーからタイムリーに報告があるため、感染状況の把握や感染対策の実施、ベッドコントロール等、迅速に対応することができ、感染拡大を防ぐことができた。
- ・ICT メンバーを中心に、職員が感染対策を行いやすい環境を日々検討し、業務中も必然的に質の高い対策を講じることができた。

(3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・感染対策の標準的な質を維持するためには設備投資を行い、環境を整えていくことも重要である。
- ・施設構造上、感染対策では以下の項目が重要であるが整備が難しい。
  - 廊下やエレベーター等 動線が分けられない（患者、感染症、ゴミ回収）
  - 個室が少ない。

- 多床室（4床、6床）となっており、ベッド間隔が感染対策を実施するには狭い。
- NICUのベッド（部屋の広さは施設基準を満たしているがベッド間隔が狭い）
- ドアのない多床室（6人部屋）がある。
- 本館の病棟は各部屋にトイレがあるが、旧棟には共有トイレとシャワーのみ。
- 空調 各部屋の換気能力が施設基準に求められている程度は満たしているが、基準以上の換気能力が必要である。

#### 添付資料

- ・電話診療、看板、ホームページの写真



これまでの新型コロナウイルス感染症対策の取組と課題

組 織	中部病院	所属・部門	
項 目	7 コロナ関連補助金を活用した医療機器・備品等の整備、寄贈品等		

(1) 対応、取組、実績

○慰労金・補助金・手当の手続き

- 令和2年3月以降、国による緊急対応策により、新型コロナウイルス感染症対応従事者に慰労金交付事業が創設されることとなり、委託職員も含め、一人一人確実に交付されるように手続きを実施した。

対象者：職員 1,285 人（会計年度、退職者含む） 委託 358 人 計 1,643 人

- 新型コロナウイルス感染症関連補助金等申請業務が増加した。（コロナ診療に必要な機器整備や病床確保に伴う損失補填のため緊急包括支援交付事業、救急・周産期・小児医療体制確保事業、感染症対策専門家派遣事業、DMAT・DPAT 等医療チーム派遣事業、新型コロナウイルス感染症医療従事者向け宿泊施設確保事業補助金等）
- 特殊勤務手当の支払業務が増加した。（伝染病防疫特別手当及び感染症拡大時業務対応特別手当、感染症拡大時派遣対応特別手当の支給）

○機器・備品・消耗品等の整備

- 遺体袋、消耗品等の緊急発注作業が生じた。
- N95 マスクが不足し中国製品取得ルートを開拓した。
- ディスポエプロン欠品で急遽布エプロンを調達した。
- 大量使用でアルコール類（消毒用）の備蓄庫が必要になり臨時で整備した。
- コロナ診療にあたり職員への感染防止を図るため必要な資機材を調達した。
- コロナ患者の病床確保のため、一般病棟に陰圧設備を設置した。
- 救命救急センター内に簡易陰圧室を整備した。
- 人工呼吸器 57 台、ECMO 3 台を整備した。
- 当院の構造上、発熱外来ブースを設置することが困難であるため、車両で来院のまま診療するために、発熱患者ドライブスルー診療に必要な大型テントを設置した。
- その他にも、ミンティ（空気感染隔離ユニット）、紫外線照射機、クリンパーテーション、ゾーニングのためのスクリーン（衝立）、即時簡易隔離ユニット、心電図モニター（隔離で患者の監視ができないため）、体温測定センサー等を整備した。

○寄贈品等

- 県民より沢山の応援、激励の物品、メール等が届き有り難かった。
- 令和2年7月、外来ギャラリーにて感謝の横断幕を掲示した。（支援物資の写真、院長の感謝の言葉掲載）また、七夕にちなみ短冊を用意し職員、来院者に願いを記載してもらった。

## (2) 評価

- ・職員への慰労金や手当の支給など、業務量が増加し、担当の負担が大きくなった。
- ・コロナ関連補助金を活用し、院内でコロナ感染症患者を受け入れる際に必要な機械類を購入し、安全に医療を提供することができた。
- ・寄贈品や感謝のメッセージなど暖かい支援で、困難な状況を乗り越えることができた。

## (3) 課題（次の波や新興感染症に備えて）

- ・職員が感染対策の標準的な質を維持するための継続的な教育、設備投資が必要である。
- ・个人防护具の不足時の対応と備蓄が課題である。マスクやガウン、手袋が入手困難となり、これら資機材の大量調達と保管場所の確保、新たな入手先の確保が必要となった。
- ・个人防护具の不足は、コロナ対応する職員にとって不安を与えたため、不足が発生しないようコスト面も考慮しながら、今後も目標値を維持できるようにすることが必要である。

## 添付資料

- ・コロナ補助金購入機器一覧
- ・機器・備品・寄附等の写真

コロナ補助金購入機器一覧

番号	品名	数量
1	ミンティ	12
2	人工呼吸器	11
3	HEPAフィルター付きパーティション	10
4	サイレンティア・スクリーン・システム	10
5	セーフティクリーンパーティション（吸引型）	10
6	超音波画像診断装置	8
7	分娩監視装置アクトカルディオグラフ	6
8	加温加湿器搭載型フロージェネレーター	5
9	プレシジョンフロー	5
10	空気／酸素ブレンダー	5
11	卓上キャビネット	4
12	下膳車	3
13	ビデオ喉頭鏡	2
14	BDマックス全自動核酸抽出増幅検査システム	2
15	紫外線照射システム(UVDI-360)	2
16	黄疸計	2
17	診断支援DICOMステーション	2
18	エアウェイスコープ	1
19	ポケットエコー	1
20	顔認識検温測定器	1
21	無線式患者モニタリングシステム	1
22	CT撮影装置	1
23	超音波診断装置用プローブ用洗浄器	1
24	気管支ビデオスコープ	1
25	卓上型クリーンベンチ	1
26	紫外線照射システム(UVDI-360)	1
27	解析付心電計	1
28	個人用多用途透析装置	1
29	小型個人用逆浸透精製水製造装置	1
30	血液ガスシステム	1
31	心電同期モニター	1
32	デュアルショットGX7	1
33	全身用X線CT診断装置	1
34	デジタルX線透視撮影システム	1
35	X線撮影システム	1
36	BDマックス全自動核酸抽出増幅検査システム（ソフトウェア）	1
合計		118

